



広報 えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。



稲作の集大成・門沢橋小学校児童のもちつき(12月)

門小が「総合的な学習の時間」で稲作

きね 杵持つ手に響く収穫の喜び

「よいしょー!」「よいしょー!」。冬晴れのグラウンドに、子どもたちの威勢のいいかけ声が響きます。このもちつきは、門沢橋小学校(西澤雅男校長・児童数402人)が毎年行っている稲作の集大成です。今回は、稲作に取り組み続けてきた、同校の子どもたちの姿をご紹介します。

種から稲穂へ子どもたちも成長

稲作は、もち米の栽培に取り組みながら、働くこと、育てることの喜びや大切さを学ぶ体験教育の一環として、昭和52年から門沢橋小学校で続けられています。実施に当たっては地元農家が協力員となっており、栽培技術の指導やトラクター・耕運機などで、子どもたちを手助けしてきました。

この稲作が、今年度から「総合的な学習の時間」として位置づけられることになりました。子どもたちが稲作の過程で課題や疑問にぶつかったときに、自分たちで考え、解決する力を養うことがその狙いです。このため今回の稲作は、種もみの準備に始まって、苗床づくり、田おこし、しろかき、田植え、すずめ除けの設置や施肥・除草、稲刈り、脱穀に至るまでの企画・運営が、すべて子どもたちの手に任されることになりました。

こうして、4月下旬から種もみまきなどの作業が始まりましたが、子どもたちにとっては万事が手探りのため、トラブルやハプニングが続出。当初は不満をこぼしたり、単調な作業に飽きてしまう子も見受けられました。

子どもたちに変化が表れ出したのは5月ごろから。土が硬すぎて田おこしができないときに、協力員へ手助けをお願いする手紙を連名で書いたり、上級生が下級生にコツを教えながら、苗とり(田植えのために苗床から1本ずつ手で抜いた苗を束にする作業)をする姿が見られるようになりました。「こうした子どもたちの行動は、去年までの稲作とは明らかに違って見えました」と、学校関係者は話します。

少しずつ軌道に乗り始めた稲作は、田植え、稲刈りなどの一連の作業を無事に終えて、地元農家から借り受けた890平方メートルの水田から約270キログラムのもち米を収穫することができました。

もちつきの後には、きな粉やあんこをまぶしてさつそく試食。「おいしい!」「来年もまた作りたい!」と口々に話す子どもたちにとって、自分たちで作り育てたもちの味は、いつまでも忘れられない思い出になったことでしょう。

(関連記事2面に掲載)